

| 中長期目標(学校ビジョン) | 今年度の重点目標 |
|---|---|
| <p>1. 鳥取県内有数の進学校としての地位の確立</p> <p>①国公立大学・難関私大現役合格率6割以上確保</p> <p>②進研模試、校外模試において学年平均偏差値60以上確保</p> <p>2. 「学力面で優れた生徒＝人格的にも優れた生徒」という湯梨浜学園の生徒像確立</p> <p>【目指す生徒像】</p> <p>①自ら考え、自ら行動できる生徒</p> <p>②他を思いやり、受け入れることのできる生徒</p> <p>③支え合い、共に成長できる生徒</p> <p>④夢の実現に向けて努力する生徒</p> | <p>1. 学習指導の充実と進路指導の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国公立・難関私大合格15名以上を目指す。並びに国立難関大、国公立医学科3名以上合格を目指す。 ・中学部各学年、学力推移における全国偏差値平均を4月の学力推移を基準として5ポイントアップ、偏差値平均50以上、偏差値60以上3名以上の実現。高校部各学年、校外模試における全国偏差値平均を7月の進研模試を基準として3ポイントアップの実現と維持。 ・到達点を明確にし、成長を感じさせる授業を、毎回提供する。授業を通して生活指導をする。 <p>2. 学校運営の充実と教育環境の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各分掌の活動を充実させ、他の分掌、他の職員と連携を図りながら、校務が機能的に運営されることを目指す。 ・校内における定期的な研究授業、教科内研修、校内・校外における職員研修を充実させる。 ・学級通信、HPなどで、伝えたい内容、保護者が必要としている内容を吟味し、保護者への情報提供に努める。 ・ICT機器の利活用を推進する。 <p>3. 生徒指導の徹底と教育相談の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「あいさつ」「返事」「掃除」の3つの柱に関して、分掌との連携を図り、凡事徹底の推進。 ・個別面談などを通し、生徒理解に努め、教育相談、スクールカウンセラーとの連携で悩みの解決や相談にあたる。 <p>4. 人権教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あらゆる場面、あらゆる教科で、すべての先生が人権教育視点に立った教育を行う。 |

評価は S(達成) A(ほぼ達成) B(あと一歩) C(未達成) です。

| 評価項目 | 具体的項目 | 中間評価 | 達成状況(年度末)と次年度の課題 | 評価 |
|--------------------|--------------------------------|------|--|----|
| 1. 学習指導の充実と進路指導の強化 | 教務力の向上 | B | 大学入試、高校入試問題を活用した専門教科職員試験を実施し、課題発見と自己研鑽を促した。授業研修は各教科1回ずつ実施。授業見学は教科・個人差があったが意識づけはできたか。 | A |
| | 国公立・難関私大合格15名以上 | | 神戸大学、鳥取大学(医)、岐阜薬科大学、金沢大学、大阪医科大学、日本大学(歯)、法政大学、明治大学、立命館大学など、23名の国公立・難関私大合格。医学科3年連続合格も達成。 | A |
| | 校外模試における数値目標達成 | C | 一定の成果を出した教科・科目や学年もあるが、全体としては目標達成には至らなかった。特に高校部での教科・科目間での格差の是正が課題である。 | B |
| | 授業を通しての生活指導 | B | 授業を通しての生活指導が意識されつつある教員、生徒が見られるようになった。学年、教科での差をなくすのが課題である。 | A |
| 2. 学校運営の充実と教育環境の整備 | 各分掌活動の充実・連携 | B | 分掌業務内容に大きな変更はなかったため、主任の変更による混乱はあまりみられなかった。分掌の複数担当に戻したが、業務負担感の差など引き続き改善する必要がある。 | B |
| | 校内・校外における研修の充実 | A | 校内における授業研修は軌道にのってきた。今後は生徒への還元が最終目標であることをさらに意識した研修にしたい。授業以外の校外研修に積極的に取り組むのが次年度の課題である。 | A |
| | 学級通信などを通じての情報提供 | A | 学級通信は定期的に発行できているクラスとできていないクラスがある。今年度途中で立ち上げたFBについては、HPとのすみわけが十分できず中途半端になってしまった。 | B |
| | ICT機器の充実と利活用 | A | タブレット端末を活用した授業を工夫するなど、教科・担当者の意識に変化が見られるようになった。全教員が利活用できるように広げていきたい。 | A |
| 3. 生活指導の徹底と教育相談の充実 | 高い規範意識を養い、分離礼、はきはき返事、もくもく掃除の徹底 | B | 規範意識が低い生徒への指導、服装や挨拶などの指導など、教員による差の是正が課題である。 | B |
| | 生徒との教育相談の機会を充実させ、自己肯定感の醸成 | A | 少人数学校のメリットをいかし、担任・副担任にこだわらず、話しやすい教員が臨機応変に対応できている。自己肯定感の醸成について、より一層の工夫を継続したい。 | A |
| 4. 人権教育の推進 | 教職員の人権意識の向上 | B | 生徒に対する言動、個人情報の管理など、さらに意識を高めていく必要がある。 | B |